

加藤内科広報新聞 5月号

過ごしやすい季節ですが、朝と晩の寒暖差が大きいので
体調をくずされませんようお気をつけ下さい。



平成30年度から後期高齢者医療健診の基本的な健診に、腎機能の検査として

『尿酸』と『血清クレアチニン』が追加され、社会保険の特定健康診査では、

詳細の健診として『血清クレアチニン』が追加されています。

また、特定健診、後期高齢者医療健診の詳細の健診として、

当院と提携している法師山眼科で眼底検査を受診できるようになりました。

※法師山眼科以外での眼底検査ご希望の場合は保険診療となり、
自己負担が発生しますのでご了承下さい。

●以下の項目に1つでも該当する方が、眼底検査が必要とされる方になります。

- ・最高血圧 140mmHg 以上
- ・最低血圧 90mmHg 以上
- ・空腹時血糖 126mg/dl 以上
- ・HbA1c 6.5%以上



●眼底検査とは？

瞳孔の奥にある眼底には、光や色を感じる網膜や、網膜が感じた情報を脳に送る視神経乳頭や、網膜に栄養を送る血管があり、それらを眼底カメラなどで観察する検査です。

眼底検査では、網膜の血管を直接見ることができるので、その血管の状態から様々な病気を見つけることができます。

●どんな病気がわかるの？

網膜剥離や緑内障などの眼の病気がわかります。

また、高血圧・動脈硬化・腎臓病・糖尿病などの全身の病気や、脳卒中や心筋梗塞などの前兆が見つかることもあります。

●例えば・・・

糖尿病の三大合併症の一つ、『糖尿病性網膜症』という病気をご存知ですか？

血糖が高い状態が続くと、眼底の網膜に出血が起こり、視力障害が現れます。

進行すると失明する可能性がある病気なのですが、かなり進行していても自覚症状が少ないのが特徴です。

また、脳卒中や心臓病など命にかかわる病気を引き起こす高血圧は、『高血圧性網膜症』という眼の病気も引き起こします。

こちらも失明する可能性がある病気で、自覚症状がなく進行し、視力障害が起きると回復が困難な病気です。

糖尿病と高血圧症を合併している場合は、これらの網膜症の進行を進めてしまう場合があります。

眼底検査は眼の病気がわかるだけでなく、生活習慣病の検査としてもとても重要です。

眼底検査の対象となった方で眼科を受診していない方は、この機会に眼科の受診をおすすめしております。

●眼底検査の流れ

眼底は瞳孔の奥にあるので、まず瞳孔を広げ、眼の調節機能を休ませる目薬をさします。

瞳孔が開いたら、カメラなどを使って眼底を観察します。

検査は少ない時間で終了し、特に痛みなどありませんが、目薬の影響でしばらく眼が見えにくかったり、明るい所が眩しく感じたりする場合があります。検査終了は細かい作業や車の運転ができなくなる場合があります。

検査の日に眼底検査依頼書を記入してもらい、眼底検査は終了となります。

結果は当院にて、特定健診と一緒に説明させていただきます。

特定健診の結果は1週間ほどでそろいますので、早めの受診をお願い致します。



●法師山眼科

〒592-8344堺市西区浜寺南町3丁1-2 TEL072-275-6457

	月	火	水	木	金	土	日・祝
9時～12時	○	○	○	○	○	○	×
16時～19時	○	○	○	×	○	×	×

●国道26号線、浜寺南3丁交差点を西に入ってください。

秋になるとインフルエンザの予防接種が始まり、冬になると風邪の患者さまが増えて、診察が大変混み合う恐れがあります。特定健診やガン検診などを希望されている方は、5月～9月に受診していただくようお勧めしております。



* 次回発行予定→6/20頃